

# はじめに

---

今年、昨年から続く世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大により、本県においても県民生活や地域経済に大きな影響を受けた一年でありました。状況の変化に的確に対応しながら、感染症への備えや地域経済の活性化に取り組むとともに、新たな県政運営の指針である「新・宮城の将来ビジョン」を基に、SDGs（持続可能な開発目標）の考え方も踏まえ、多様な主体との連携による活力ある宮城を目指し、「持続可能な未来」をつくるための各種取組をスタートしてまいります。

環境分野においては、脱炭素に向けた世の中の動きが急加速した一年でした。ノーベル物理学賞に、二酸化炭素濃度の上昇が地球温暖化の原因となっていることを世界に先駆けて解明した真鍋淑郎氏が選ばれたほか、英国グラスゴーにおいて開催された国連気候変動枠組条約第26回締約国会合（COP26）では深刻化する気候変動問題について各国が気候危機として認識を共有するなど、地球温暖化に対する関心・注目度は大きく高まっています。

本県でも、令和3年度を始期とする「宮城県環境基本計画（第4期）」において、「2050年二酸化炭素排出実質ゼロ」のゼロカーボン社会の実現を新たに長期目標として掲げたところであり、環境への配慮と地域経済の発展が両立する、持続可能な社会の実現に向け施策を展開してまいります。

令和3年版宮城県環境白書は、環境基本条例に基づき、令和2年度における本県の環境の状況と県が講じた施策の状況を公表するものです。「宮城県環境基本計画（第4期）」の策定内容のほか、地球温暖化対策への理解と関心を高め行動してもらうため新たに運用を開始したスマホアプリ「ecoチャレンジみやぎ」や、県内初となる水素で発電し走行する燃料電池バスの路線運行開始、「土砂等の埋立て等の規制に関する条例」の施行など各種施策の取組について掲載しました。

私たちが暮らす恵み豊かな本県の環境を保全し、次世代に受け継いでいくため、県民の皆様一人ひとりが本書を通じて環境課題への理解を深め、環境配慮行動を実践されますことを期待します。

令和3年12月

宮城県知事 村井 嘉浩